

市民フロンティア



URL <http://www.cskobe.com/>

E-MAIL info@cskobe.com

発行人：中村順子 編集人：岡本雅士

2011年度 第13期 (第23回)

通常総会を開催



5月29日(日) 午前11時～12時、2011年度(第23回)の通常総会が、CS神戸の新事務所にて開催されました。

出席者は、今田 忠、金芳

外城雄、国枝哲男、小室邦夫、立田英雄、當間克男、中村厚子、長谷川京子、坂本 登、中村順子の各正会員でした。(書面による出席は、足立 勝、荒巻順一、石川両一、岡本仁宏、佐野末夫、末村祐子、松下忠義、安元邦夫の各正会員)

審議の結果、以下の全ての議案が可決・承認されました。

【決議事項】

1. 2010年度活動報告および収支決算報告・

監査報告の件

本年度は15周年記念事業(事務所移転・居場所やCBファーム等への特別助成)への道筋をつけることに取組んできた。また新規事業として兵庫県立大学全県キャンパス事業(大学と地域とのネットワーク作り)や東灘NPOフォーラム事業(区内法人の交流)、東日本大震災事業(寄付・県外被災者支援・現地応援)を実施した。総収入は9,400万円、収支差額は、230万円のプラスとなり、監事より、5月12日に監査を行った結果、適切に処理されていることを確認した旨のご報告がなされた。

2. 2011年度活動方針および収支予算の件

既存事業・15周年記事事業に加えて、新規事業として神戸市内のNPO法人実態調査(石川理事監修)を受託。いろいろな点で、さらに『見える化』を進めて行く予定。なお総予算は9,970万円を計画。

法人事務局の体制について

飛田が事務長となり、各プロジェクト活動の全般的な把握を行うとともに、外部委託していた給与計算・会計業務を岡本、植木、朴にて分担して行う。

2011年度活動方針について

15周年記念年度に相応しい充実した1年となるように、役員・職員が一体となって『過去に感謝し未来に挑戦』することで、更なる地域貢献を目指す。

●基本方針

・ 15周年記念・地域貢献事業の実施と定着

『地域にやさしいCS神戸』を基本コンセプトに新事業所の立地と環境を最大限に活用するとともに、神戸市東部地区での居場所の設置支援、ふるさとCBファームの独立に向けた運営支援を実行する。

・ 見える化の推進

事務所、実施事業、市民向け情報などの見える化を工夫し、事業進捗をPDCA(プラン・計画⇒ドゥ・実施⇒チェック・評価⇒アクション・行動)にて目に見える形で確認。また利用者を顧客として見える化を行う。

・ 次年度以降の新規事業の調査研究(自主事業の可能性の追求)

・ 東日本大震災支援を引き続き、末永く応援

現地への物資購入支援・ノウハウ提供・定期定額募金を検討。兵庫県への被災非難者支援は個別にきめ細かく対応していく。

・ 人材と組織の活性化

月例勉強会の充実と、総会・理事会・企画調整会議・部門会議を有機的に連動させ、ミドルアップ・ミドルダウンの徹底により、NPOらしい運営を追及する。

●主要なプロジェクト方針

1. 生きがいごととサポートセンター神戸東事業

新事務所に移転して立地がよくなり、相談者が増加。以前にも増してより多くの就業・起業を応援していく。また起業に関しては、外部団体との連携を強化していく。

2. JR住吉駅前駐輪場指定管理事業(神戸市)

南北駐輪場の職場交流を通じて、人材と業務の質的向上を図っていく。

3. 東灘区民センター小ホール指定管理事業(神戸市)

従来の各種教室・講座をさらに充実し、芸術と文化を通じた活性化や付加価値作りを進めて行く。

4. 介護サービス情報の公表調査事業

例年より早くスタートするため、準備を遺漏なく行い、適確に実施していく。また本事業と第三者評価のあり方について、県や調査機関と協働した提案を予定している。

5. 新規事業

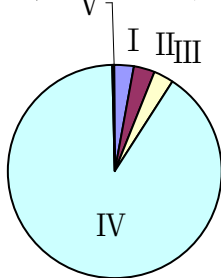
神戸市NPO法人実態調査以外に、神戸いきいき勤労財団からコミュニティビジネス実践講座を受託。また国から兵庫県を通じてコンペ方式で募集される『新しい公共支援事業』の受託にも、積極的にエントリーを行う。新事務所について、その立地を活かした市民事業を新規に開拓していく。

2010 年度決算報告

(2010/4/1~2011/3/31)

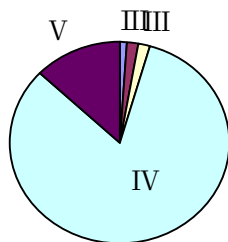
<収入 94,031 千円>

- I 会費・寄付金 (3%)
- II 助成金・補助金 (3%)
- III 自主事業 (3%)
- IV 受託事業 (90%)
- V その他 (1%)

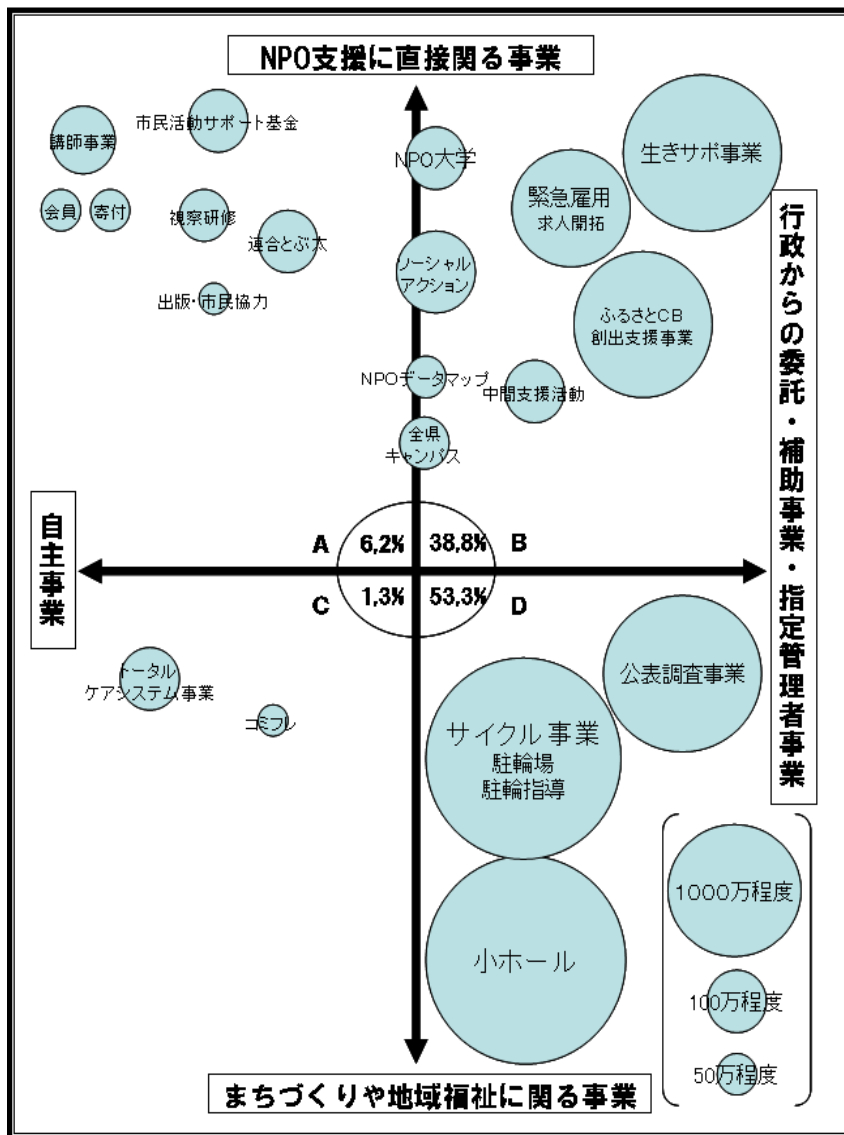


<支出 91,721 千円>

- I 支援事業 (1%)
- II 直轄事業 (2%)
- III 自主事業 (2%)
- IV 受託事業 (82%)
- V 一般管理費 (13%)



CS神戸における事業構成 2010年度決算実績



2011 年度 第 1 回理事会を開催



5月19日(日) 午後4時~6時、CS神戸の旧事務所にて、今年度の第1回理事会が開催されました。足立勝、石川両一、金芳外城雄、中村厚子、中村順子の各理事が出席、末村祐子・坂本登両理事の委任状を得て成立し、理事会決議事項は議案どおり総会へ提案されました。また監事の松下忠義氏にも陪席をいただきました。

(岡本雅士)



新事務所移転パーティー

「みんなの集い」を開催しました！

6月25日(土)、新事務所にてと題したお披露目パーティーを開催し、会員さん・NPO関係者・行政関係者・企業関係者等、総勢100名を超える方々にお越しいただきました。事務所の玄関前では、丹波野菜や区内小規模作業所製品の販売も行われ、賑やかな会となりました。

オープニングでは、CS神戸の15年を振り返るパワーポイントを上映しCS神戸が実施してきた数々の事業などを紹介。「ファッションが古い!」「〇〇さん、若〜い!」、など、皆でワイワイと15年の歴史を共有しました。

参加者からのひとことメッセージでは、新事務所の内装を一手に引き受けてくださったNPO法人すみよいくらしサポートの皆さん、『火の鳥の女性たち』(兵庫ジャーナル社、2004年)で中村理事長との共著もある兵庫県理事、清原桂子さんなど多くの方からもお祝いコメントをいただきました。

続いて、CS神戸の正会員でもあるミュージックアトリエ・エコー、安元邦夫さんによる音楽タイム。「上を向いて歩こう」、「いつでも夢を」などおなじみのナンバーを皆で熱唱し、軽快な伴奏で盛り上げてくださいました。そしてラストは、大じゃんけん大会。東日本大震災支援のクラシックコンサートのペアチケットと丹波の物産セットが当たるとあって、大いに盛り上がりました。

梅雨中での開催で、天気が心配されましたが、晴天にも恵まれ、とても楽しく、温かい1日となりました。また、CS神戸は、多くの皆様に支えられているということ、改めて実感した日にもなりました。ご参加いただいた皆さま、どうもありがとうございました。(飛田敦子)



CS神戸 15年の略歴

- 1995年度 阪神・淡路大震災発生
活動の前身「東灘地域・助け合いネットワーク」の活動を開始
- 1996年度 CS神戸を設立(魚崎財産区内に事務所を置く)
市民活動サポート基金の創設
- 1997年度 事務所をコーベビー(株)の敷地内へ移転/1年誌の発行
NPOマネジメントスクール(現 NPO大学)がスタート
- 1998年度 深江市場にNPO市民工房設置
- 1999年度 特定非営利活動法人格を取得/神戸ふれあい工房の受託
オアシスプラン(生きがい対等型ミニデサービス)の企画提案実施
- 2000年度 CS神戸3年誌を発行/魚崎わかばサロン・東灘区民センター小ホールを
管理受託、生きがいしごとサポートセンター(ワラビー)を受託/起業(NP
O) 研究員制度を導入
- 2001年度 西宮いしざい団地の支援事業の実施
- 2002年度 ぐるぐる発電所を設置/こうべNPOデータマップがスタート
- 2003年度 CS神戸7年誌『コミュニティ・エンパワーメント』を発行/彩都まちづくり支
援事業/ぐるぐるバス調査事業の実施
- 2004年度 事務所をJR住吉駅前の森田ビル3階に移転/ワラビーの再受託
- 2005年度 指定管理者としてJR住吉駅前駐輪場の管理受託を開始
- 2006年度 指定管理者として小ホールの管理受託を開始/トータルケアシステム・神
戸東部NPOサービスセンターを開設/CS神戸10年誌DVDを作成
- 2007年度 人間力再生プロジェクト(特別な休暇普及促進事業)の開始
芦屋市民活動センター支援の開始
- 2008年度 JR住吉駅前における不法駐輪指導業務を開始
- 2009年度 介護サービス公表調査事業を開始/求人開拓事業を開始/ふるさとCB
創出支援事業を開始/ソーシャルアクション支援プログラムの開始
- 2010年度 大学とNPOの協働プロジェクトの開始/東灘NPOフォーラムの開始/東
日本大震災の生活支援活動の開始
- 2011年度 ビュータワー住吉館に事務所を移転/NPO調査事業を受託



美声を披露してくれた
スタッフの野々村さん

少し酔っ払いぎみ?で伴
奏中の安元さん

★移転パーティーの様子★



作業所「あすか」さんが出展してくださった、かわいいタオルたち♪

多くの方にお越しいただき、受付には行列ができました！



「アトリエ太陽の子」による展示。
ミニギャラリー『市民の展示窓』では、2週間 3000 円で、展示される方を募集中です！

事務所移転・再スタートに、皆様からひと言をいただきました。



設立 15 周年、新オフィスからの再出発おめでとうございます。



NPO法人 東灘地域助け合いネットワーク 理事長 村山メイ子

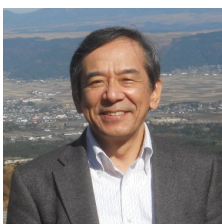
「引越しは3回しないと満足できない」と言いますが、CS神戸さんは3回でも満足できず、4回目の引越しでようやく念願成就、まるでヤドカリが成長するように、引っ越すたびに広く便利な場所に拠点を移してこれ、お喜びもひとしおのことと、心よりお祝い申し上げます。

このたび東灘区の一等地、それも東灘区役所の真横に拠点を構えられましたことは、まさに日本のNPO界をリードするCS神戸さんにふさわしい選択であり、これからは地域密着型の顔の見えるNPOとしても実力を発揮されるだろうと多いに期待をしています。

この事務所は元の喫茶店のおしゃれな雰囲気とオリジナルデスクがぴったりコラボしており、ここから中村さんはどんな事を発信し、何を成し遂げられるのだろう、そしてどのように波及させるのだろうと、私はわくわく楽しみにしています。また誰もが安心して暮らせる地域づくりのために東灘区役所とNPOを結ぶパイプ役もよろしくお願いいたします。

スローガンは『地元でメジャー』、合言葉は『ご近所づきあい』！

ヒューマンスキル研究所 小室邦夫（正会員）



CS神戸のミッションは「自立と共生」である。たとえば、くるくるバス。住吉台の交通難民の課題に、大学や企業を巻き込んで実際にバスを走らせてみる。この間、学生は実学で研究を自分のものにし、企業はビジネスチャンスを確認する。やがて住民が自分たちで運行ルートやバス停の位置を決め、失いつつあったコミュニティが今バスの中で取り戻されている。それぞれが主体性を発揮しながら「自立」の手応えを感じ、「共生」を分かち合う。CS神戸

のミッションは見事に機能し、全国メジャーに拍車がかかる。

ところが、CS神戸の存在は事務所のある地元であり知られていない。それは、顔の見える関係が弱いからであろう。顔の見える関係とは、自立と共生の関係でもある。CS神戸は11年度の活動方針に「見える化」をあげている。これをまず地元から実践しよう。イベントの案内や情報発信は事務所のマンションの住民やお店、目の前の区役所にも行おう。もっとも身近な人たちが新たな仲間となり親衛隊となって活動を後押ししてくれる。新事務所のめざす地域のプラットフォームにもつながること間違いなし、である。“地元でメジャー”、“ご近所づきあい”！これからはこのノリでどうだろうか。。。

笑いと感動と元気をお届けしました！
(生きがいしごとサポートセンター神戸東)

～『地域を元気にするビジネスのすすめ』開催～
コミュニティ・ビジネス (CB) フォーラム



宮城での震災支援活動からとんぼ返りで基調講演
田村 太郎氏

7月9日(土)、よみうり神戸ホールにてCBフォーラムを開催しました。県内6ヵ所の生きがいしごとサポートセンターが合同で行うイベントは過去にも何度かありましたが、今回は初の試みとして6生きサポと日本政策金融公庫の共催によるフォーラムを実施することになりました。

基調講演にはダイバーシティ研究所代表理事をはじめ、多方面でご活躍中の田村太郎さんをお迎えし、CBの意義や魅力・可能性についてお話いただきました。「コミュニティを共通

の課題をもつ集団と捉え、サービス対象者を絞り込むこと」「CBの成果＝課題が改善されている状態、を目標とすることから事業計画を考えること」など、CB起業の極意がたくさん飛び出しました。

第二部のパネルディスカッションでは年齢・活動分野・運営方法が異なる3名のパネリスト(岩崎吉隆さん／(株)マイファーム、植木力さん／(株)カスタネット、小林房子さん／NPO法人友一友)から、実践者としての本音を語っていただきました。様々なエピソードの中でも共通していたのは志・夢に対する思いの強さ、経営能力、そして人との関係づくりを大切にしていることでした。特に「人が人を呼び、常に助けられてやってきた」「現在は、いかに人を巻き込むかの“渦巻き型”のリーダーシップが大事」など人とのつながりに感謝しながら活動を行っている様子が印象的でした。

今回のフォーラムはCB起業を視野に入れている方を主な対象として企画したため、当初は100名を定員としていました。ところが、大勢の方からの問い合わせ、申込が殺到し、急遽、会場のレイアウトを変更したところ、参加者は210名にのぼりました。暑い気候に負けない熱い思いの講演者・パネリストの方々の話に、賛同の声あり、笑いあり、感激の拍手ありのフォーラムとなりました。(狩野仁未)

NEW

新スタッフ紹介



ワラビーに入り、早3ヶ月。事務所も以前の3階から、通りに面した1階という立地へと変わりました。これまで以上にたくさんの方々が相談に訪れ、これまで以上に熱くサポートしたいと思っています。…とは言え3ヶ月では、まだまだ相談者の皆様のお役に立てないこともあります。そこは『まごころ』でカバーしますので、よろしくお願いします。

竹内亮貴(たけうち りょうき)

—生きがいしごとサポートセンター神戸東 相談員



『魚っ子お習字クラブ』の子供達が願いを込めて七夕の飾りを作りました。
(魚崎区民小ホール)

他のプロジェクトのフォトギャラリー



『市民農園』は誰でもご利用になれます。(CBファーム・篠山)



一般の皆さんがプロからの農業実習を受けています。(CBファーム・篠山)

東日本大震災支援活動

～ 役に立った『何でも説明・何でも相談会』 ～

「神戸での避難生活が苦でないのは、周りの人々の支えの賜物」と参加者の声

7/19（火）当日は、台風到来の予兆がある天候ではありましたが、北須磨文化センターにおいて、4家族10人の被災者の参加のもと、復興に関する制度や仕組みの説明と個別相談さらにアロマリラクゼーションコーナーの3本立てで進行しました。東日本大震災、神戸に避難された方々への支援活動の一環としてCS神戸が企画主催し、兵庫弁護士会・アロマグループの協力、経費は地元企業からの支援金を充て、まさに協働スタイルでの相談会でしたが参加者を含め満足のいく相談会となりました。

西野弁護士と津久野弁護士ら5人の弁護士から罹災証明の重要性、災害義援金制度などお金に関すること、原発事故による仮払い補償金、事業者向け震災対策特別資金、失業補償等々現時点での各種制度の説明があり、引き続き何でも相談では、ご家族単位に1人ずつ弁護士さんが貼りつき1時間以上にわたって個別に対応。別コーナーではクリスKの木村さんらによる手のひらのアロママッサージで疲れを取りリフレッシュ、うとうと眠りを誘われた方もいました。主催者が個別相談の内容まで関知することはありませんが、参加者からのコメントがこの会の意義を物語ってくれています。

【福島県からのAさん】

兵庫県は仮設住宅はじめ救援物資もいち早く対応してくれて嬉しい。今回の弁護士会や精神面のケアも行ってくれるのは、震災の経験がある以上に兵庫県の防災に対する質の高さだと気付いた。CS神戸や他のNPOも親身になってくれ、神戸での生活が苦でないのは、周りの人々の支えの賜物で、1人ではないと勇気づけられた。感謝以上の気持ちで一杯です。

【福島県からのBさん】

福島から避難してきたが原発補償に関して詳しくお話が聞けてよかった。マスコミの方がいなくてホッとした。被災者の集まりにはいつもたくさん来られて落ち着かなかった。アロマも気持ち良く弁護士さんも一生懸命調べてくださり、今後も不明なことがあればぜひ相談したい。

これまでは神戸西助け合いネットワークの協力の下、主として生活物資を40世帯100人の方々に提供してきましたが、帰郷を決意される方、永住を考えている方などニーズの変化を機敏に感じ取り、ますます個々に寄り添って、様々な資源と協働しながら支援を継続する気持ちを新たにしました。（中村順子）



ソーシャルアクション支援プログラム

～ 第3期がスタートしました ～



うーん、私にできることは何かしら？

6月22日（水）、第3期ソーシャルアクション支援プログラムが始まりました。参加者はシニア層を中心に39名。前年度と同様に（財）神戸いきいき勤労財団とCS神戸が協働で取り組んでいます。

初日は『セカンドライフをいきいきと過ごすコツ』と題して、（財）さわか福祉財団の大畠政義さんによる講座からスタート。「ペットの世話」、「庭木の剪定」など日常の困りごとをグループ内で協力し合って解決する「助け・助けられゲーム」も行い、今日知り合ったばかりとは思えないほど、盛り上がりしました。

2日目からは、地域の居場所を運営する（特）西須磨だんらんの日埜さんや、企業内作業所で障がい者の就労支援を行う（特）みちしるべ神戸の小鷹さんなど、様々な分野で活躍するリーダーをお招きし、活動を紹介いただくとともに、受講生との意見交換も行いました。

また特に反響が大きかったのが、1期生および2期生にも数多くご登壇いただいた「バトン・ラーニング講座」。高齢者支援の団体でスタッフとして活動する人、外国人支援の団体で日本語を教えている人、当講座を通じて出会った仲間と団体を立ち上げた人など、様々な分野で活躍する修了生の体験談に、真剣に聞き入っていました。講座後は、受講生、修了生、スタッフの総勢35名での交流会となり、年度を越えた輪が更に広がりました。まだ始まったばかりですが、2学期の体験コース、3学期の実務コースを通じて「仲間ができる、しごとができる、生きがいを創る」という3要素を実現できるようなプログラムにしたいと考えています。（飛田敦子）

東灘区民センター小ホール(魚崎)

～ 続々と新しい取り組みを始めます ～

神戸市から指定管理事業として受託している小ホールでは、これまでに脳トレや健康体操などの自主事業に取り組んで来ました。今後は継続的な文化芸術を意欲的に行う団体の支援や、皆さんの豊かな経験を活かして地域の方々と一緒に学び合う講座の開設など、地域の活性化にさらに取り組んでいきます。

■「ひがしなだ区民カレッジ」開講

皆さんの豊かな教養や文化、アイデアや体力を、広く分かち合っていくために、2012年から「ひがしなだ区民カレッジ」を開講します。日頃の練習や研究、お稽古の成果を発揮する講座を担当してくださる講師を募集します。資格や条件は特にありません。

■優先予約団体制度スタート

年間を通じて文化芸術活動を意欲的に継続している団体に対して、「優先予約制度」を設けます。2012年1月～2012年12月の月1回の使用で、当ホールとの共催事業として、公演・アウトリーチ（外部施設での聴衆参加）型公演・ワークショップ等を年1回行う団体を募集します。（締切：8月31日/水曜）

■創作ワークショップ開催

東京から「富士山アネット」の主宰者、長谷川寧さんをお招きし、最新の舞台芸術を体験できるワークショップを開きます。「富士山アネット」は、身体表現で物語をつづる「ダンス的演劇」という、独自の方法で作品を創り、海外でも注目を浴びているパフォーマンス集団です。演劇、ダンスの枠にこだわらず、広く身体表現、舞台芸術に興味をお持ちの方をお待ちしています。8月25日(木)13:30～16:30 参加費：一般2500円、大学生2000円、高校生1500円



富士山アネットの演技

神戸市東灘区魚崎中町 4-3-16 電話:078-453-0151 <http://www.cskobe.com/showhall/index.html> (兵頭修也)

J R住吉駅前駐輪場

～ 南北交流勤務をスタートしました ～



不法駐輪の確認中です

6月1日(水)よりJ R住吉駅前駐車場の新たな取り組みとして南北交流勤務を導入しました。今まで、北駐輪場のスタッフは北駐輪場でのみ、南駐輪場のスタッフも同じように南駐輪場でのみ勤務していたのを、勤務地にとらわれることなく、南北両方の駐輪場で勤務するようにしました。

目的は、①スタッフ間での管理運営・接客ノウハウの共有、②スタッフ間のチームワークの更なる向上、③スタッフに急な病気や怪我があった場合でもカバーし合える体制作り、の3点です。

今までの業務を全て見直し、不要・非効率な業務は取り止めたり改善を行うとともに、南北駐輪場でよりミスが起こりにくいやり方に統一しました。また北駐輪場では、お客様が来られてから、一時券を貼るために事務所の外に出て貼り付けていましたが、ピーク時には、お客様がお越しになる前から、事務所の前にスタッフが立ち、今までより早いスピードで一時券の貼り付けが出来るようにし、待ち時間の短縮に努めました。

当初は、初めての場所での勤務となりましたので戸惑いながらのスタートでしたが、現在では徐々に慣れ始め、改善策の実施や良い部分を両方の駐輪場に取入れています。今後とも、J R住吉駅前駐輪場を積極的にご利用下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。(朴京守)



笑顔と心遣いを忘れずに

CBファーム

丹波（たんば）野菜の販売支援を開始

新事務所ビュータワー住吉館に引越しをしてきたことをきっかけに、2011年7月5日（火）より毎週火曜日、10時 or 11 時前後（野菜が到着次第）から14 時前後まで丹波野菜の販売を始めました。過去2年間にふるさと CB（コミュニティビジネス）創出支援事業で築いてきたネットワークを生かして、丹波市、篠山市で有機農業を行う若者の生産農家の方々に支援するのが目的です。

また、毎週金曜日は、丹波の生産農家全般に向けての『朝市とれたて野菜』のサポートとして、昼過ぎから1時間ほど同じ場所で販売をしています。

スタートしたばかりではありますが、今のところ大変順調に販売支援ができており、生産農家の人たちにとても喜んでもらっています。これらの支援を通じて何か次につながるものに発展させていければと願っています。

（国枝哲男）



安全で、おいしい野菜です。ぜひご利用ください！！

—近隣の方にも喜んでいただいています—

会費・寄付・寄贈をいただき、誠にありがとうございました



（期間 11年5/14～11年7/15、いずれも順不同・敬称略）
※トータルケアシステムは別枠で取扱っています。

【会費】

藤浦 剛、稲田 薫、猶原信男、大西洋助、井上雅晴、福島若子、福島洋子、櫻井繁樹、伊谷須美子、見機 明直、田春夫、與口 修、角田敏子、尼川洋子、中山照彦、石井眞由美、上野恭男、務川悦孝、山本好克、檜谷 實進、藤啓子、保科正彦、松岡弘子、植戸貴子、弓削 一水、船春美、津田久雄、宮下隆二、西山八重子、今田 忠伊、藤靖子、岡部記代子、西村尚士、毛利眞弓、坂本 登上、念省三、星野裕志、中村順子、国枝哲男、森 功井、上隆文、小室邦夫、當間克雄、朴 京守、大野利恵、金芳外城雄、中村厚子、長谷川京子、村上義弘、中田久美子、大月みゆき、森田正純、狩野仁未、峯村しげ子、飛田敦子、白井隆夫、佐藤正義、尾山宗久、市井敬喜、藤原和男、荒巻順一
（特）颯爽 JAPAN、ヒューマンスキル研究所
（特）JOEA、（特）のあつく自然学校

（特）デイステーションたるみともの家
（医）明倫会宮地病院、（特）すみよいくらしサポート
（特）思いやり支援センターくまの



【寄付・寄贈】

櫻井繁樹、中村順子、中村厚子、村上善弘、山本待子、荒巻順一、太美 京、飯塚二億、立田英雄、菅 祥明、井上隆文、広井かほる、朝山日出夫、渡辺羊子、江坂昌宏、林 律子、鮎沢慎二、中谷守宏、中谷悦子、川村貴子、足立 勝、大和三重、葦原サカ江、三科晃子、岡田雅幸、（株）関西都市居住サービス、（特）颯爽 JAPAN（財）神戸いきいき勤労財団、（特）福祉市民ネット川西（特）NPO会計支援センター、（一般社団）クルレ全労済兵庫県本部、（有）ランクル福祉、東灘子どもカフェ（特）WACゆずり葉、雅工営、（特）cafe ovce（特）神戸ライフ・ケア協会、（特）てみずの会（特）にじのかけ橋、（株）キットシステム、カタオカネットワーク（財）神戸ファッション協会、（特）たすけあい、（特）エフエー（特）東灘地域助け合いネットワーク、北河内たすけあいシルバーインフォメーションルーム、（社福）木の芽福祉会（特）すみよいくらしサポート、（特）コムサロン21（特）阪神高齢者障害者支援ネットワーク、（特）愛逢日本政策金融公庫、（特）ひょうご・まち・くらし研究所（特）灘・つどいの家、（特）宝塚NPOセンター（特）市民事務局かわにし（株）創造と協働のまちづくり研究所（社）兵庫県シルバー人材センター協会

※事務所の移転にあたって多くの方からお祝いを頂きました。本当にありがとうございました。改めて御礼を申し上げます。

■東日本大震災への募金・寄付について■

ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。震災関連の募金につきましては、原則として募金箱に入金いただく形式にさせていただいており、お名前の掲載はしておりません。送金先、支援内容についてはHP上の掲載をもって、報告とさせていただきます。ご理解、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

2011年度の会員継続をお願いいたします！

市民活動を共に支えて下さる賛助会員（個人・団体）の方々に募集しております。機関誌の定期配送や関係図書の割引などの特典、会員交流会をご用意しています。

【会 費】個人会員 3,000円／年、団体会員 10,000円／年
【振込先】名義 NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸
郵便振替 00950-2-144205

編集後記

事務所の移転という大変に大きな節目にあたり、CS神戸がとても多くの方々に支えられていることを痛感しました。感謝の念で一杯です。人と人のつながりを大切にしながら、中間支援団体としてのミッションの実現に尽力したく、その思いを新にしました。今回2名の方にフロンティアの原稿をお願いいたしましたが、これからも読者の方に参加していただける紙面づくりを考えていきたいと思っています。（O）